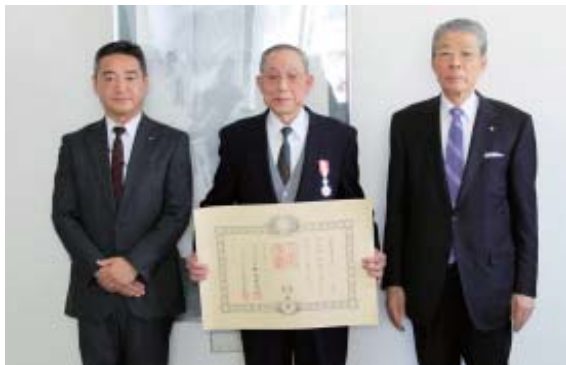


金山保さんに旭日単光章



中小屋に在住の金山保さん（写真中央）が、国または公共に対して功績を残された方が、米寿を迎えられたときに贈られる高齢者叙勲（旭日単光章）を受章され、役場で飯田孝二北海道石狩振興局地域政策部長から伝達されました。

金山さんは、町議会議員として昭和46年5月から平成7年4月までの長きにわたり、町勢の伸展に貢献されました。

（2月28日）

今、子育てに必要なこと



親子のコミュニケーションや、地域での子育て環境のあり方を考えようと「少子化フォーラム in とうべつ」が町の主催で、2回のシリーズに別けてゆとろで開催されました。

第1回では「親子のコミュニケーション up 術」、第2回は「地域で支え合う子育てへ」をテーマにそれぞれ講演があり、参加者同士で世代を超えた子育て体験や、意見交換も行われました。

セミナーは合計で69名が参加し、子育てへの理解と認識を深めていました。

（2月21・27日）

お父さんの役割



北海道が主催して「お父さん応援講座」が白樺コミュニティーセンターで開かれました。

女性が生涯に産む子どもの数「合計特殊出生率」の最近の調査では、北海道の平均は1.26人、当別町は全道で下から4番目の1.07人です。近年、母親の負担軽減には父親の育児参加が必要とされることから、講座の最後には、仕事と家事・育児の両立を積み木を使ってイメージしてもらいました。参加のお父さんは、積み木を積みながら改めて子どもとの関わり方と育児の必要性を感じていました。

（2月24日）

広 告

広 告

広 告

大学と連携したファイナルセミナー



北海道医療大学と町が連携して、ブランドづくりに取り組んだ報告セミナーが行われました。

セミナーでは、アスパラ、かぼちゃ、にんじんなど当別産野菜のパウダーを使ってブランド商品の開発を進めた取組みが紹介されました。アドバイザーからは、ブランドづくりには欠かすことの出来ないお話しや商品デザインの提案がありました。参加者は、試食しながら「野菜の風味、色、香りを活かす更なる改良ができないか」など、ブランド開発の取組みに期待を寄せていました。

(3月9日)

柔道初体験！レクサンド市から高校生



姉妹都市レクサンド市から3名の高校生と、同市の隣のレトヴィーク市の先生1名が来町して、町民と交流を深めました。

3人はレクサンド高校に通うアルフレッド・バーガンスさん(19)、ハンナ・ブラサールさん(19)、フリーダ・クリストファーソンさん(18)で、3月11日から16日まで町内の一般家庭でホームステイしながら当別高校の授業などに参加しました。14日は柔道を体験。アルフレッドさんは「礼儀正しく、受身は体を守る意味がある。日本の文化は合理的で意味が深い。」と感心していました。(3月14日)



広 告

広 告

広 告